

60周年に寄せて



芳村 学*

プレストレストコンクリート工学会（以下、PC工学会）が設立60周年を迎えられたことに対して、日本コンクリート工学会（以下、JCI）を代表して祝意とともに一言ご挨拶申し上げます。

周知のように、RCの欠点であるひび割れ発生を抑制するために考案されたPCはRCの発展形といえます。しかし、PC工学会の設立はJCIのそれより7年早く（1958年対1965年）、原形と発展形で学会の設立時期が逆転しているのです。貴学会の設立60周年にちなんで、両学会誕生の背景に目を向けることは意味があると思われま

す。貴学会のウェブによると、「PC工学会の旧名であるプレストレスト技術協会は、PCに関する国際組織であったプレストレストコンクリート国際連盟（FIP）からの、日本にもFIPに加盟できる組織を作ってほしい、との要請を受け、吉田徳次郎氏がほかが発起人となって1958年に設立された」とあります。一方JCIは、当初American Concrete Institute（以下、ACI）の日本支部として発足し、その後ACIの傘から離れて1965年に旧名である日本コンクリート会議として設立されました。つまり、PC工学会が「国際組織への加盟の条件」として作られたのに対して、JCIは「世界的機関の一支部」として作られたのです。設立の背景が違えばその時期が逆転することは当然ありうることです。貴学会が先に設立されたことに関係して、1964年から1965年にかけての貴学会会誌中の「協会記事」のなかに、①「日本コンクリート会議設立のために土木学会、日本建築学会コンクリート連合委員会委員長武藤 清氏と同副委員長國分正胤氏連名での設立趣意書が届き、趣旨には賛成なので今後の動向を見守ることとした（第73回役員会）」、②またその6ヵ月後には、「会長に日本コンクリート会議設立への発起人引き受けの要請があり、受諾した（第79回役員会）」、との内容の記述が見られます。これらの記事から、貴学会の同意・了承の元でJCIが誕生するに至ったことが分かります。

このように、異なる背景からスタートした両学会ですが、現在では「兄弟学会」と呼べるほどに活動内容は類似

しています。資格認定制度としての、一方でのPC技士とコンクリート構造診断士と、他方でのコンクリート技士・主任技士とコンクリート診断士、など、はその好例です。また、PC工学会とJCIは、FIPの現在版である国際構造コンクリート連合（fib）に日本代表としてともに加盟し、メルボルンでのfib 2018年会議では共同でナショナルレポートを出しています。われわれとしては今後も、互いに協力しながらコンクリート技術の発展に貢献したいと考えています。

ところで、コンクリートの研究分野において、土木ではPCとRCの両方をやる人が多いのですが、建築ではRCしかやらない人と両方やる人に分かれる傾向にあり前者のほうが多数を占めるようです（筆者も前者に属しています）。このことに関連してか、建築においてPCを教える大学が少ない、ことが問題となっています。下記文献によると、「PCの授業を単独で通期開講しているのは大阪大学、大阪工業大学、長崎大学、日本大学だけで、半期の講義を行っている京都大学を加えても5校しかなく、ほとんどの大学ではRCの授業の1コマ程度の扱いである」ことが指摘されています（注：PCを教える大学の分布が西高東低であることは面白い現象です）。また、これも下記文献で指摘されていることですが、PCをいま以上に普及させるためには授業時間を増やすことが効果的、と思われま

す。最低でも数コマの授業枠の確保は必要でしょう。梁やスラブなどの水平部材におけるPCの有効性は明らかです。また、軸力が作用する柱に対しても、緊張力を加えることにより地震後の残留水平変形を少なくすることができ、メリットをPCはもっています。建築分野でもこれまで以上にPCが使われることが期待されます。

最後になりましたが、PC工学会についての知識がまったくない筆者に情報提供して下さった貴学会専務理事・西垣義彦氏に謝意を表します。

岸本一蔵：建築へのPCの普及、プレストレストコンクリート、Vol.59, No.4, p.14, 2017

* Manabu YOSHIMURA：日本コンクリート工学会 会長
首都大学東京 名誉教授